

深川駅周辺複合施設整備基本計画

概要版
令和4年
11月

市では、生涯学習機能とバスターミナル機能を中心とした「複合施設」の整備に向けて、このたび「深川駅周辺複合施設整備基本計画」を策定しました。

計画の策定にあたっては、市民で構成する深川市複合施設整備検討委員会や深川市議会複合施設整備特別委員会をはじめ、各関係機関・団体などでの議論や市民説明会、パブリックコメントなどを通じて寄せられた市民の皆さんからのご意見を踏まえ検討を進めました。

今後、本計画をもとに市民に親しまれ利用しやすい施設を目指し複合施設の整備を進めていきます。

第1章 基本計画策定の目的

複合施設整備の基本方針や施設に備える機能等を具体的に示すとともに、設計を行う際の基礎的内容を示すため策定するものです。

第2章 現状及び課題の整理

◆中央公民館

建設から45年以上が経過し、施設・設備の機能低下により十分な環境での公民館活動が難しい状況となっています。また、現行の耐震基準やバリアフリーの基準を満たしていないなど様々な課題を抱えています。

◆バスターミナル

平成19年度にバス事業者のターミナルが廃止されて以降、新たなバスターミナルは整備されていません。

市内では5社の路線バス等が運行されていますが、多くが市立病院前の発着で、JRからの乗り継ぎやバスターミナルの整備が長年の懸案事項となっています。



中央公民館外観

《中央公民館概要》

構造・階数	鉄筋コンクリート造 地上3階、塔屋1階
延床面積	1,971.55㎡
開設年月日	昭和50年9月30日
利用状況	39,971人(H30) 16,281人(R3)



市立病院前バス待合所

第3章 検討経過等

下記の取り組みを通して、中央公民館やバスターミナルの整備をはじめ、複合施設への導入機能などについて様々な意見等をいただき検討を進めました。

※（）書きは実施時期

◆基本計画検討開始前（令和4年3月まで）

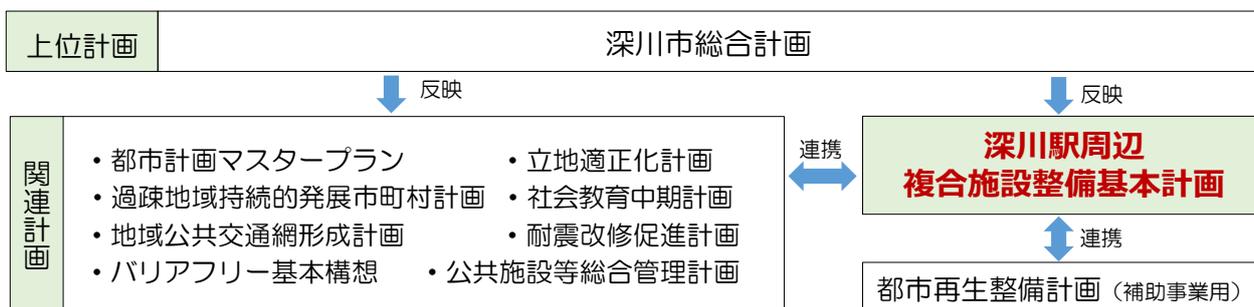
- ・社会教育委員会議への諮問(H27)・答申(H29)
- ・中央公民館利用サークルとの意見交換会(H31.1)
- ・各種アンケート調査等(H26～R3)

◆基本計画検討開始後（令和4年4月以降）

- ・学生ワークショップ(R4.6)
- ・中央公民館利用サークルの意見を聴く会(R4.6)
- ・公共交通に関する利用動向調査(R4.7)
- ・深川駅利用学生アンケート(R4.8～9)

第4章 関連する計画

市の各種計画に複合施設の整備について位置付けており整合性を図り基本計画を策定しました。



第5章 整備の方向性

◆財政措置

国の補助事業「都市構造再編集中支援事業（個別支援制度：国費率 1/2）」を活用します。

◆整備の必要性

中央公民館とバスターミナルは、まちなかの活性化や市民生活向上のために必要不可欠であり、有利な補助事業の活用が確認できましたので、課題解消のため新たな施設を整備します。

◆整備の方法

公共施設等総合管理計画では複合化を優先しており、補助事業では合築が要件となっています。

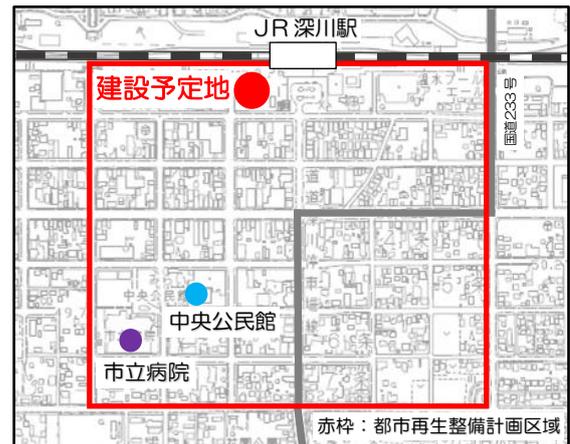
また、複合化によりコスト縮減や利用促進等が期待できますので、生涯学習機能とバスターミナル機能を中心とした複合施設として整備します。



◆建設位置

都市再生整備計画の区域内で一定の広さが確保できる土地を4カ所抽出し、市民の利便性や事業の実現性、まちなかの活性化など5項目で比較検討しました。

その結果「深川駅に近く交通結節機能の強化が図れる」「敷地面積が広く事業の実現性がある」「用地確保がスムーズで負担が少ない」などから建設位置はJR 深川駅西側にします。



第6章 基本方針

◆基本理念

学習機会の拡充や交流の促進をはじめ、市民生活の利便性向上やまちなかのにぎわい創出につなげ、市民に親しまれ利用しやすい施設を目指して整備を進めます。

◆基本コンセプト

「まなぶ」「ふれあう」「つながる」 まちの交流拠点

◆基本方針

方針1 誰もが訪れやすく利用しやすい施設

方針2 多様な学びや交流が可能となる施設

方針3 便利で安心な暮らしを支える施設

方針4 環境に配慮した施設

方針5 経済性と機能性のバランスがとれた施設

方針6 誇りと愛着を感じるまちの顔となる施設

第7章 整備計画

◆導入する機能

生涯学習機能	市民が気軽に生涯学習活動や各種会議・研修等ができる場 (部屋等) 研修室、会議室、多目的ホール、和室、工作室、視聴覚室、調理室 等
交流機能	幅広い世代が集い、にぎわいや交流が創出できる場 (部屋等) 多目的スペース、キッズルーム、スタディ&コワーキングルーム、カフェ 等
交通機能	路線バス等の乗車を快適に待つことができる場や安全に乗り降りができる場 (部屋等) 待合、公共交通レーン、乗降場

◆導入機能の具体的内容

3つの基本機能について整備する部屋や整備のイメージ・考え方を次のとおり整理しました。

生涯学習機能

生涯学習の拠点として多様な学びが実現できるよう必要な環境を整えます。

《整備する部屋》

- ・ 研修室
- ・ 会議室
- ・ 多目的ホール
- ・ 和室
- ・ 工作室
- ・ 視聴覚室
- ・ 調理室 等

《主な整備イメージ（考え方）》

- ・ 部屋の共用や可動間仕切りの設置、壁・床面の工夫等により、多用途での使用を可能とし空間を有効活用します。
- ・ 和室や工作室など現在複数ある部屋は集約して整備します。
- ・ 部屋の面積や設備（例：ステージ・茶道の炉等）などは、利用実績や類似施設の状況、事業費等を踏まえ検討します。
- ・ 多目的ホールや和室、調理室は災害対応を想定し設置階を検討します。
- ・ サークルの備品収納スペースは施設規模や事業費を踏まえ検討します。
- ・ 使用料は市内類似施設や他市の状況等を踏まえ検討します。 など

交流機能

幅広い世代が自由に訪れ交流促進やにぎわい創出が図れるよう必要な環境を整えます。

《整備する部屋等》

- ・ 多目的スペース
- ・ 多目的ルーム
- ・ キッズルーム
- ・ スタディ&コワーキングルーム
- ・ カフェ
- ・ 多目的広場

《主な整備イメージ（考え方）》

- ・ 施設全体のロビーとして、休憩や待合せ等で誰でも自由に利用する他、催しなどで多目的に利用できる「多目的スペース」を整備します。
- ・ 子どもの遊び場や授乳室等を設け、子育て世代が交流できる「キッズルーム」を整備します。
- ・ 公衆無線 LAN や電源等を用意し、学習や仕事等で自由に利用できる部屋として「スタディ&コワーキングルーム」を設置します。
- ・ 軽飲食が楽しめる「カフェ」の設置を検討します。
- ・ 屋外にイベントや臨時駐車場等で活用できる「多目的広場」を整備します。 など

交通機能

安全で快適に路線バス等の公共交通機関が利用できるよう必要な環境を整えます。

《整備する部屋等》

- ・ 待合
- ・ 公共交通レーン
- ・ 乗降場

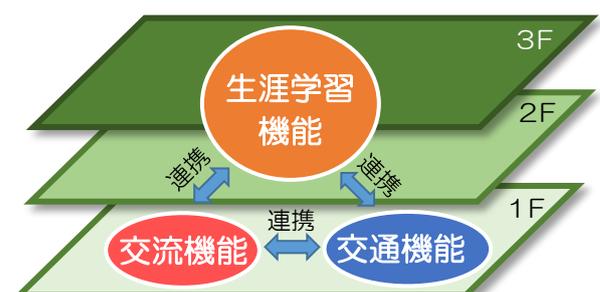
《主な整備イメージ（考え方）》

- ・ バスの「待合」を設け、机・椅子・テレビ等を設置するほか、公共交通に関する情報が提供できる機能を検討します。
- ・ 路線バスや温泉・学校等送迎バス等が利用できる「公共交通レーン」を整備します。
- ・ 待合から近い場所に「乗降場」を配置し屋根等を設置します。 など

その他の機能

- ①バリアフリー・ユニバーサルデザインを導入し誰もが安心して快適に利用できる施設とします。
- ②再生可能エネルギーの活用と省エネルギー化の推進を検討します。
- ③地域材の活用を検討し、木のぬくもりが感じられる居心地の良い空間作りを目指します。
- ④防災対応として、指定避難所としての使用を想定し、必要な機能等を検討します。
- ⑤現状より駐車台数が増えるよう駐車場を整備します。 など

◆階層別に配置する機能のイメージ



※上記は配置イメージを示したもので、階数等を決定したものではありません。

◆建設予定地の概要

- ・所在地 深川市一条514番5外
- ・土地の状況 市道及び民有地
- ・区域 都市計画区域（区域区分非設定）
- ・用途地域 商業地域（一部準工業地域）

◆周辺地域への配慮

地域材の活用や外観デザインの工夫等を図るとともに、周辺の環境・景観との調和や周辺施設との連携等を図るよう検討します。

◆施設の面積

各部屋の規模は今後検討するため、現時点で施設の延床面積の設定は難しい状況です。

そのため、現在の中央公民館の延床面積（2,000㎡）を基準値とし、基本設計で平面計画等の詳細を検討する中で各部屋に必要な面積を算定し、それらを基準値に追加・削除して施設の延床面積を決定します。

なお、延床面積が基準値より増加する場合は、最大でも3,000㎡以下となるよう検討を進めます。

◆階構成

敷地面積と導入する機能を考慮した場合、現在の中央公民館と同程度（3階建て）を想定しており、これを基本に平面計画等を考慮して基本設計で階数を決定します。

◆敷地の面積

項目	想定面積	備考
現中央公民館敷地面積	約 1,500㎡	
駐車場増設分	約 300㎡	
公共交通レーン	約 2,200㎡	
多目的広場	約 700㎡	
その他	約 1,300㎡	通路、緑地等
合計	約 6,000㎡	

◆配置方針

施設は可能な限り JR 深川駅に近い位置に配置し、駅への通路に屋根等の設置を検討します。また、適切な範囲で敷地を取得し必要な機能を効率良く配置します。



第8章 事業計画

◆整備手法

現時点では、設計段階でも市民等の意見が反映しやすく地域経済への波及効果等が期待できる「設計・施工分離発注方式（従来方式）」が適していると考えますが、今後、事業費や工期等も考慮して、適切な手法となるよう検討します。

◆整備スケジュール（見込み）

R4 (2022)	基本計画
R5 (2023)	土地調査等
R6 (2024)	基本・実施設計
R7 (2025)	建設・外構工事等
R8 (2026)	
R9 (2027)	解体・跡地整備等
R10 (2028)	

◆概算事業費（仮算定）

項目	延床面積 2,000㎡	延床面積 3,000㎡	備考
基本・実施設計等	約 1.5 億円	約 1.7 億円	施設設計、外構設計、各種調査等
建設工事	約 14.0 億円	約 21.0 億円	
その他費用	約 5.8 億円	約 5.8 億円	用地買収、補償費、外構工事、解体等
合計	約 21.3 億円	約 28.5 億円	

◆財源（仮算定）

項目	延床面積 2,000㎡	延床面積 3,000㎡	備考
補助金	約 9.7 億円	約 13.2 億円	
地方債	約 9.9 億円	約 13.5 億円	過疎債等予定
一般財源	約 1.7 億円	約 1.8 億円	
合計	約 21.3 億円	約 28.5 億円	